

# ほたるに出会える こうばるの夏

夏は日暮れて 帰り道

石木川のほとりでは

ふわふわ蛍が飛んでいます

ここはこうばる 蛍の里

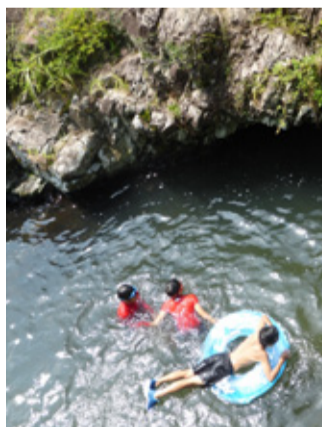
自然を守る人が住む

(川原のうた)より

- 写真集「石木川のほとりにて」
  - ドキュメンタリー映画「ほたるの川のみもりびと」
- DVD 好評販売中!



小さいけど、大きな生命力を秘めた石木川の夏！  
蛍の次は子どもたちの水遊び天国だ！



「川原」と書いて「こうばる」と呼ぶ小さな集落が川棚町にあるのを知っていますか？九州百名山の一つ虎壺蔵(こけぞうざん)のすそ野に広がるのどかな田園地帯です。

先祖代々受け継がれてきた大地では、今も四季おりおりの作物が実り、花々が咲き誇り、生きものたちが息づく里山風景が残っています。地域のシンボルともいえる清らかな

な石木川の畔では、今年も幻想的な蛍の乱舞を彩り始める季節を迎えています。新新型コロナウイルス感染拡大の影響で恒例の『ほたる祭り』は中止になってしまいました。

先ず水質のよい、きれいな川に生息することが知られています。石木川には、なんと魚類だけでも64種類も生息。決して大きな川ではありませんが、絶滅危惧種の貴重な淡水魚

をはじめ、植物まで多種多様な生き物が生息できる豊かな生態系は専門家も目をみはるほど。ちなみに江戸時代に西洋に紹介された標本『シールトコレクション』の淡水魚もたくさん生息しています。

今も子どもたちが川遊びを楽しみ「こうばる」の夏。そこは人と自然が共存してきた日本の原風景が残る場所です。

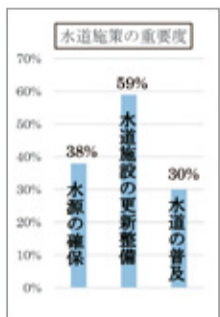
## 石木川も、こうばるも、佐世保の水も守りたい

そんな石木川にダムが造られようとしています。川棚川の洪水対策と佐世保市民のための水源確保が目的の石木ダムです。ダムができれば、魚もホタルも丹精込めた田畑も、人々の暮らしも全てが水の底に沈んでしまいます。

それでいいのか、疑問に思った私たちは「石木川まもり隊」を結成し、石木川流域の素晴らしさを多くの人に伝えるとともに、佐世保の水事情についても調べ、学び、発信してきました。例えば、佐世保の水需要は減少の一途を辿っていることこ

の20年間で給水量は2割も減少や、佐世保の漏水量はとても多いこと(平成30年度の一年間の漏水量は308万トで、それは山の田ダム5個分を超える水量)、石木ダム関連事業費の総額は354億円に上ること(一世帯あたり約30万円の負担)などです。

二年前に佐世保市が実施したアンケート調査でも、多くの市



2018年「佐世保市まちづくり市民意識アンケート調査」報告書資料より

石木川の清流も、ライフラインの水道も、どちらも命を支える大切な水。みんなでも守り育み、未来に手渡したい。それが私たち石木川まもり隊の願いです。

民が水源確保よりも水道施設の老朽化対策が重要だと答えています。本当に「石木ダムは佐世保市民の願い」なのか、立ち止まってじっくり考えてみたいものです。

## 石木川・まもり隊

「石木川まもり隊」が誕生してまもなく11年。これまでに様々なイベント(写真展、上映会、自然観察会、ため池探検、水道施設見学等)や集会(シンポジウム、講演会、勉強会等)をおこなってきました。私たちはダムの賛否に関わらず、持続可能な社会を求めて、市民同士、また水道局職員の方々とも膝を交えて語り合いたいと思っています。コロナが収束したら町内公民館での座談会を再開します。また、石木川やこうばるを訪ねてみたい等のご相談もお受けします。ご意見お問い合わせは、下記の連絡先へお願いします。(代表 松本美智恵)

- ウェブサイト <http://ishikigawa.jp>
- フェイスブック <http://www.facebook.com/ishikigawamamoritai/>
- 連絡先 メール: [michi30@hyper.ocn.ne.jp](mailto:michi30@hyper.ocn.ne.jp) 電話 090-6171-5810 (同会事務局)

石木川まもり隊 検索

